

私は、政清会を代表しまして、議案第1号から議案第7号までの議案7件、令和4年度野田市一般会計予算及び各特別会計予算並びに野田市水道事業会計予算及び野田市下水道事業会計予算の全てに賛成する立場で討論いたします。

令和4年度一般会計予算について歳入から申し上げますと、令和3年度予算で約11億円の減収を見込んだ市税が、そこまで落ち込んでいないことから、対前年度当初予算比では9億1,500万円の増となっておりますが、令和2年度決算比では3億6,800万円の減収見込みであり、コロナ禍の前までは回復が見込めていない状況です。また、地方の財源不足を補う普通交付税については、原資となる国税の上振れにより約6億3,200万円の増となりましたが、普通交付税の代替である臨時財政対策債は約13億4,700万円の大幅減となっております。必要な一般財源の確保については非常に厳しい状況が続いております。このような中、公共施設のネーミングライツなど新たな財源確保の取組なども行い、最終的には財政調整基金の取り崩しを行わずに収支均衡を保っていることを評価いたします。

歳出について申し上げますと、総務費では、船形中央会館を有効活用する（仮称）多世代交流センター整備費が新規計上されたほか、まめバスの運行計画見直しに向けたコミュニティバス運行計画基礎調査委託料や交通不便地域支援事業、愛宕駅前出張所に係る経費など市民の利便性向上に資する事業が計上されております。

民生費では、福祉施策の充実に向けて、強度行動障害者グループホーム整備補助金、あすなろ職業指導所の耐震診断委託料、楽寿園のナースコールシステム設置委託料及び個室化改修工事などが新規計上されております。また、令和4年8月に開館予定の子ども館整備事業の計上に加え、子ども医療費助成においては小学生までの自己負担金を無料化し、中学生の自己負担金を300円から200円に引き下げる拡充を行うなど、子育て支援策の充実が図られていることを評価いたします。

衛生費では、不妊症・不育症治療費等助成事業費が新規計上されるとともに、がん検診費では胃がん検診に内視鏡検査を導入する経費が計上されております。

商工費では、空き店舗の解消に向けて適用業種を拡充するとともに、家賃補助の限度額を引き上げ、中心市街地に限定していた改修費補助の対象を市内全域に拡大するなど、空き店舗活用支援事業を拡充されていることを評価いたします。

土木費では、連続立体交差事業及びその関連事業の進捗が図られるとともに、愛宕駅前へのホテル誘致や愛宕駅西口駅前美術館といった街のにぎわい創出に資する事業も計上されております。

消防費では災害対策本部となる市役所駐車場への無停電照明装置設置工事、

救助工作車及び救急自動車各1台の更新経費が計上されております。

教育費では、令和5年度までの継続事業として岩木小学校トイレ改修工事が新規計上されておりますが、令和3年度予算に前倒した小学校4校のトイレ改修工事と小学校4校の設計委託料も含めて、子どもたちから要望の多い学校トイレの洋式化を加速していることを評価いたします。また、北部中学校施設改修事業費、郷土博物館改修工事及び耐震診断委託料、福田体育館耐震補強等設計委託料、関宿給食センター改修工事などが新規計上されており、公共施設の老朽化対策及び安全対策にも配慮された予算となっております。その他、鈴木貫太郎記念館再建に向けた資料修復委託料が計上されているほか、公民館10館での開催に拡大する、高齢者向けスマホの使い方講座に係る経費と併せて、公民館4館の公衆無線LAN設置に係る経費が新規計上されております。

以上、主なものを取り上げましたが、令和4年度一般会計予算は総額531億7,100万円で、新型コロナウイルス感染症対策費の計上に加え、障がい者扶助費の伸びや国民健康保険特別会計繰出金の増、人件費における退職手当の増などにより前年比4.3%、21億9,900万円の増と過去最大の予算規模となっております。しかしながら、依然として根幹となる市税がコロナ禍前まで回復が見込めない厳しい財政状況の中、全庁を挙げた新たな財源確保やゼロベースでの事業見直しを継続することにより、コロナ禍においても元気で明るい家庭を築ける野田市の実現に向けた施策を可能な限り盛り込んだ適切な予算であると評価いたします。

また、国民健康保険、介護保険、次木親野井特定土地区画整理事業及び後期高齢者医療の各特別会計予算並びに水道事業会計予算及び下水道事業会計予算についても、それぞれの目的に沿った適切な予算措置がなされていると評価いたします。

以上のとおり、私は令和4年度一般会計予算ほか全ての予算に賛成いたします。